

先進地紹介

# 地域が一体となって取り組んだ個性的で魅力的なまちなみ形成

～新潟県南魚沼市・牧之通り～

石岡市 都市建設部 都市計画課 主事 片岡 慎治

平成25年10月24日～25日にかけて、茨城県都市計画協会主催の先進地視察が行われました。ここでは、視察で学んだ新潟県南魚沼市のまちづくり(官民協働による街路整備「牧之通り」)についてご紹介いたします。

## ■新潟県南魚沼市及び「牧之通り」の概要

南魚沼市は、新潟県南部の魚沼盆地に位置し、太平洋側と日本海側を結ぶ交通の大動脈が集中しています。関越自動車道や上越新幹線などの高速交通によるアクセスがよく、交通や物流の中継地としての役割を果たしています。また、旧塩沢町は日本有数の豪雪地であり、千年以上織物の技術が伝承する伝統的な地域となっています。

牧之通りは塩沢市街地を縦貫する重要な路線であるとともに、沿道は宿場町として栄えた歴史的な通りであり、雪国の町屋様式である雁木造り(雪よけの屋根)を備えています。しかし、近年は生活様式の変化による改築等の影響により、その魅力は損なわれ賑わいを失った時期もありましたが、官民協働で街路や建物等を一体的に整備することで雪国特有のまち並みと魅力を復元させました。

## ■牧之通り整備までの道のり

整備前の牧之通りは、前述した生活様式の変化等の影響



整備前の牧之通り

も相まって、商店街は停滞し、統一感のないまちなみがつくられ、また歩道もありませんでした。そのようななか地元住民から道路拡幅や歩道

新設の声が挙がり、住民主体となって平成11年に「県道仲田塩沢線(牧之通り)を拡幅する会」を設立し、新潟県に牧之通り拡幅の請願書を提出しました。平成12年には「塩沢らしいまちづくりを考える会」(新潟県+旧塩沢町+地元住民)を発足し、ワークショップ等を行いながらどのようなまちづくりを行っていくかを話し合いました。

その後「雪国の歴史と文化を活かすまちづくり」をコンセプトに「牧之通り組合」を新たに組織し、本格的に牧之通り復活に向けた計画が立てられました。

## ■牧之通り組合の活動について

牧之通り組合では、沿線の建築物の外観意匠の統一、色彩の制限等を定めた建築協定(塩沢雪国歴史街道まちなみ形成協定)を締結するとともに、デザインルールを定め「旧三国街道」の宿場町として栄えた雪国特有のまちなみの復元を進めています。

### ●デザインルール

- ①建物は、伝統的な雪国建築様式を生かしたデザイン
- ②色彩は白・黒・茶を基本とする
- ③建物の高さは11m(2階建て)以下
- ④和風の建物に合うデザインとして、千鳥格子や風返し(烏どまり)を活用
- ⑤看板・自動販売機等はまちなみに合うよう意匠に配慮  
etc...

また、組合内に「まちなみ形成協定運営委員会」を設け、地区内に建築する建物の色彩・形状等を細部にわたり審査し、合格した建物に対して「まちなみ景観協定合格証」の標を交付しています。





### ■新潟県及び南魚沼市による街路整備

牧之通りは、旧塩沢町の中心市街地を南北に走る重要な路線であることから、新潟県による街路整備と南魚沼市による関連事業により行われました。

事業内容は、商店街の景観と連携した電線類の地中化や道路の拡幅、歩道の石畳舗装整備等であり、塩沢地域の伝統・文化を活かしたまちなみづくりを支援しています。また、セットバック部分に雁木を設置し、街路の歩道とあわせて5.5mの歩行者空間を整備しています。この雁木や沿線にある牧之通り広場、街路樹、公衆トイレ等の維持管理は組合が行っています。



### ■その他の活動(「射干しゃがの会」の活動)

その他の活動として、牧之通り沿線の40代から70代の女性を中心とした「射干しゃがの会」についてご紹介いたします。この「射干しゃがの会」は、地元の男性有志がまちづくりに取り組んでいる姿を見て、女性たちも「私たちにも何かできないか、まちづくりに貢献したい」という思いから結成されました。各家庭にある伝統的なひな人形を玄関先などで飾り、一般に公開する「ひな雪見かざり」を開催するなど地域活性化の一端を担い、今や牧之通りを代表するイベントのひとつとなっています。

また、観光客の増加に伴い、地元の若者たちによる出店が相次ぐなど、「射干しゃがの会」の活動の波及効果も徐々に表れています。

### ●代表的なイベント

- ①ひな雪見かざり(2月第3土曜～4月3日まで)
- ②五月人形かざり(4月21日～6月5日まで)
- ③牧之通り着物茶会(5月3日)
- ④牧之通り七夕飾り(7月7日)
- ⑤塩沢つむぎ語り(10月1日～11月23日まで)



牧師通り着物茶会

### ■おわりに

牧之通りの活動は、街路事業の初期段階から住民と行政の意見交換により知識や思いの共有化が図られ、この関係が県道や市道の改良といったハード整備において効果を発揮し、住民意見を反映したまちづくりに繋がったと言えます。

今回の研修でご説明していただいた牧之通り組合長の中嶋氏から「まちづくりとは人づくりである。地域のアイデンティティを確立していく意識が大切であり、そこに住んでいる人たちが自分たちで考えて行動することが重要である。」という興味深いお話をいただきました。

わたしは行政側の立場ですが、まちづくりの本質とはまさしく中嶋氏のおっしゃったことそのものだと思います。主役はあくまでも地域に暮らす住民であり、行政はバックアップする立場ということです。

例えば今回の事例のように、行政はワークショップなどの開催をサポートし、住民からはハード・ソフト両面でアイデアを出してもらい、勉強会や協議会を通してお互いの意識を共有しながらまちづくりのルールを設定していく、といったことが考えられるかと思います。

わたしが勤務する石岡市でも、中心市街地には看板建築が立ち並ぶなど、歴史を感じさせる通りや景観が多数あり、これらの歴史的資源を活かしながら賑わいの創出や地域活性化を目指していく必要があります。そういった意味でも、南魚沼市の協働による活動や事業の取り組みは大変参考になりました。

